

あ い さ つ

東山梨教育協議会会長 小川 正仁

東山梨教育協議会の研究の成果を収録した「東山梨教育研究」第59号が発刊となりました。この収録は、昭和38年の創刊以来、これまで多くの先輩方が積み上げてこられた研究・実践の成果を脈々と記録してきた貴重なものであり、さらに児童生徒のより良き成長を目指し教育三者が一体となり進めてきた他には見られない組織研究の成果でもあります。まずは、日々ご多忙の中にもかかわらず、理論研究や実践研究を意欲的に積み上げてこられた全ての教協会員の皆様方、慌ただしい中をこの収録の企画・執筆・編集にご尽力いただいた担当の先生方や峡東教育事務所の皆様方に心より感謝いたします。

さて、本年度は新型コロナウイルス感染症という前例のない事態への対応という喫緊の課題への取組を迫られる一年でした。これからの社会の変化について以前から言われていた「グローバル化により社会が激しく変化し、将来を予測することが困難な厳しい時代」は急速に現実のものとなりました。それは超スマート社会などと呼ばれ、予想されていた社会とは異なる世界でした。しかしこういう時代だからこそ、新しい知識や技術が生み出され、変化が激しく、常に新しい未知の課題に試行錯誤しながらも対応することが求められます。その時その時の自分にとって必要な最新の知識や技術、変化する状況を正確に見極め、考え、自ら学んでいくことが大切だと考えます。「教育の目的は社会が直面する最重要課題の解決に力を尽くすために、自ら考え行動できる人間を育てることではなければならない。」とは、有名な物理学者の言葉です。未だかつて経験したことのない課題に向き合う為に、自ら考え行動する力を育むことは、正にこれからの教育に求められています。

本年度は、研究・実践を進める上でも例年になく制約を受けました。「3密の回避」、
「新しい生活習慣」の徹底等々、子供たちも教師も互いが向かい合い学び合うためには厳しい環境でもありました。しかし、このような厳しい状況の中でも、子供たちを中心に据え、急激な社会の変化にも対応しながら工夫を重ねて様々な研究・実践がなされました。それらの試行錯誤や工夫自体が大きな成果であり、東山梨教育に関わる全ての人が「生きる力」を発揮した証であります。

これからも私たちは東山梨地区でこれまで多くの先輩方が積み上げてこられた貴重な研究・実践の英知を生かすとともに、変化する状況を正確に見極めて、子供たちの「ゆたかな学び」のために、その実態に即した教育実践を推進しなければなりません。

コロナ禍で先行きの不透明な中、さらに児童生徒を取り巻く諸問題・諸課題は山積しています。教職員の多忙化改善への取組が叫ばれる中ではありますが、これらの課題に対し、今後もお一層私たち教師自身が研鑽を積み、教育研究における横の繋がりを大切に、組織的に取り組むことが大切であると考えます。

終わりに、本誌がその一助となり、さらに東山梨教育協議会の組織研究が充実し、教職員の皆様とともに進化していくことを心より祈念し、あいさつといたします。